



<今月のご案内> 夏休み期間(～8/17)は月曜日も開館しています。お盆の夜間開放はお休みします(8/7, 14)。

【夏休み親子企画】 添別川で貝化石をとり、ブナセンターの「貝化石ボランティア」
貝化石ほり 亀水さんと同定してみましょう！

【講 師】 亀水良子さん(化石ボランティア)
【日 程】 ①8月10日(日) 10:00～15:00
②8月15日(金) 10:00～15:00
【集 合】 体育館駐車場9:45/ブナセンター9:55
【対 象】 親子 【定 員】 各回10名程度
【参加費】 300円(保険料)
【申込み】 前日17:00までにブナセンターへ電話
【持ち物】 帽子、飲み物、軍手、ぬれてもいい服装、ぬれてもいい運動靴、虫よけ、昼食、きがえ
【その他】 町外参加者は自家用車で貝化石床まで移動していただきます。

夏休みだ！ ～自由研究おたすけ企画～

●「つくる」のおてつだい
…【木工房の無料開放】をします！
(工房内の材料は一部有料)

あんなものやこんなものがつくりたい…！
ブナセンター木工房にはさまざまな素材や道具があります。
スタッフと相談しながら、自由にものづくりをしよう！

【日程】 7月25日～8月17日の開館日
9:30～17:00(16:00受付終了)
【対象】 町内の小中学生および同伴の大人は使用料無料
※初めて利用する小学1年生は保護者同伴
【申込み】 事前に電話にてご予約ください(当日可)
【定員】 工房内に同時に最大10名まで

●「しらべる」のおてつだい

川や森で捕まえた魚や昆虫、植物について知りたい！
あのいきものや素材を見たい！採集したい！など…
ブナセンターには自然に関する様々な資料があり、
野遊び好きのスタッフがいます。スタッフに相談しながら、
一緒に黒松内の自然を知りつくそう！

【申込み】 事前に電話にてご予約ください(当日可)

【ブナセンター講座】 ヤツメウナギを知ろう

かつて黒松内でも食べられていたヤツメウナギ。
今年度のブナセンター賞受賞者・三枝さんの研究
対象でもあります。どんな生き物？なぜ食べなくな
ったの？意外と知らないヤツメウナギについて
教えていただきましょう！

【講 師】 三枝弘典氏(北海道大学環境科学院)
【日 程】 8月17日(日) 18:30～19:30
【会 場】 ブナセンター
【対 象】 中学生～大人向け(親子参加可)
【参加費】 300円(ブナさぼは無料)
【申込み】 前日17:00までにブナセンターへ電話
【持ち物】 メモ帳、筆記用具

いったいどんないきもの？ ～黒松内のヤツメウナギ～

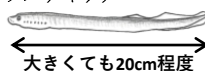
今年度ブナセンター賞受賞者の三枝さんは、朱太川のヤツ
メウナギの種類や生息環境の調査を行います。この機会に、
私たちもヤツメウナギについて詳しくなりましょう。

あごが無い、とても原始的な動物。
生きた化石といわれている。

識別がむずかしく、分類は長らく混乱されてきた。
2024年に国内のヤツメウナギ(カワヤツメ属)が
新種1種を含む5種に分類された。

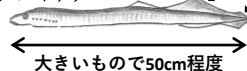
朱太川で見つかっているヤツメウナギは2種類。

キタスナヤツメ



大きいくとも20cm程度

カワヤツメ



大きいもので50cm程度

カワヤツメは
第2背びれと
尾部が
黒いのが特徴

町内でもよく食べられていた。
食感はまるでゴムのよう？

1990年代以降、全道的に減少。
朱太川では最近また見られるようになった。

黒松内のヤツメウナギの目撃情報・エピソード大募集！
捕まえたこと・食べたことのある方、ぜひ教えてください。

参考：宮崎佑介(2017)朱太川水系の魚類【第二版】
水産研究・教育機構プレスリリース2024.12.11



歌オブナ林は2028年
に天然記念物指定
100周年を迎えます



Facebookの
QRコードは
こちら

発行所：黒松内町ブナセンター
〒048-0101 北海道寿都郡黒松内町字黒松内512-1
TEL 0136-72-4411 FAX 0136-72-4440
MAIL bunacent@host.or.jp HP <https://bunacent.host.jp>
FB <https://www.facebook.com/kuromatsunai.bunacent>

ヒグマは北海道のどこにでも生息しており、いつも私たちのすぐ隣で暮らしています。ヒグマとの付き合い方は北海道で暮らしてきた先人たちがよく知っているはず。かつての黒松内の熊撃ち名人とアイヌの人々の考え方を例に、ヒグマの管理について考えてみましょう。

「無差別は邪なり」

この言葉はかつて黒松内の熊撃ちの名人と言われた高坂興次郎さん(1925～1993)が残したものの※1です。意味は「必要があって撃つのであり、むやみに殺してはいけない」ということ。最近のヒグマによる人身事故のニュースで、ヒグマに対する考え方は様々だと思いますが、人もヒグマも、むやみに命が奪われるようなことはあってはいけません。「なぜ」駆除が必要なのか、必要ではないのかをよく考えることが大切なのではないのでしょうか。

「キムンカムイとウエンカムイ」

アイヌの人々はヒグマを山で暮らす「キムンカムイ」=よいヒグマの神と、村で悪さをする「ウエンカムイ」=わるいヒグマの神として、区別してきました。現在のヒグマの管理活動も、ヒグマの個性=「問題行動を起こす個体かどうか」を見極めることが重要です。北海道庁が策定した北海道ヒグマ管理計画(第2期)では、人間に対するヒグマの行動で、問題個体の段階が分けられており、対応も段階的になっています。自分たちの命を守るためにも、ヒグマからのサインを見逃さず、ヒグマとの適切な距離感を見つけてい давайте。

非問題個体 (キムンカムイ)

段階0
人間を恐れて避ける

7月12日北海道福島町で起こったヒグマの人身事故では、事故の前に「人家付近に頻繁に出没」「廃棄物をあさる」といったヒグマからのサインがありました。

問題個体 (ウエンカムイ)

段階1
人を恐れず避けない/人家、農地付近に頻繁に出没するなど

段階2
農作物に被害を与える/生ごみや廃棄物に近づくなど

段階3
人への攻撃、つきまといなど

※北海道ヒグマ管理計画(第2期)一部抜粋・改変して作図

ウエンカムイを生み出さないために

すべてのヒグマが人に対して悪さをするわけではありません。ヒグマが問題を起こすようになるには、理由があります。ウエンカムイ=問題個体を生み出さないために、まず、以下のことを気を付けましょう。

誘引しない・餌付けせない

例えば...ゴミの管理の徹底、放棄果物を除く、畑に電気柵を設置するなど

ヒグマと生きる

過去のブナセンター講座「ヒグマと生きる①②」では、むやみに「恐れる」のではなく、正しく「畏れる(おそれる)」ことが大切だと学びました。

また、「ヒグマがいる」ということは、それだけ豊かな自然が残っているということです。

まずは隣人であるヒグマのことを正しく知り※2、ヒグマが出すサインを見落とさず、「よいクマか? わるいクマか?」を地域にすむひとりの人が考えることで、農作物被害や人身事故を未然に防ぎ、ヒグマとともに生きていくことができるのではないのでしょうか。

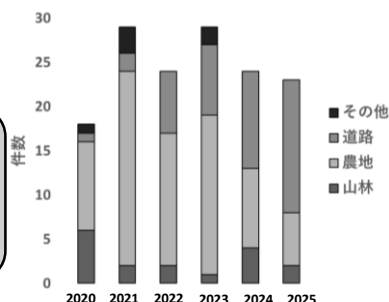
町内のヒグマ情報

(2025年7月18日時点)

出没件数は例年並みですが、去年に引き続き、7月の出没件数が多くなっています。どの年も、農地での出没件数の割合が高くなっています。町内の記録によると、農地への出没は、6-7月は小麦畑、8-9月はデントコーン畑で確認されています。また、道路での目撃件数が年々増加しているようです。

夏場は親離れしたオスヒグマやエサやパートナーを求めたヒグマたちが広範囲で動き回る季節です。※2

直近6年間のヒグマ出没件数の推移



(産業課ヒグママップデータから作図)

年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
出没件数(年間)	18	29	24	29	24 ※10月～3月データなし	23 ※7/18時点
7月のみ	4	6	1	10	14	13 ※7/18時点

※1 高坂さんが残したヒグマに関する教訓108カ条をまとめた資料はブナセンターにあります。

※2 ヒグマの生態や対処法をまとめたブナセンターだより2024年9月号「ヒグマのコト」はブナセンターで配布中です。また、ブナセンター講座「ヒグマと生きる①②」の報告書もあります。